

Mr. Bassman (ベースマン列伝) Vol.55

ジャズにおいてベース弾きとは、縁の下の力持ち、水先案内人といったやや日陰の存在。おまけに、ウッドベースなら持ち運びも大変…。だが、黙々とベースをウォーキングさせ、バンドをスイングさせることに魂を注ぐベースマンが、一度化けの皮を剥くとももの凄い名演・名盤が生まれるのだ。このコーナーでは、そんなジャズ・ベースマンの偉業を称えるとともに、ジャズ・ベースの素晴らしさを伝えていきたい。

Jim Hughart 【ジム・ヒューアート】



Photo : Jim Hughart (1963)

Profile

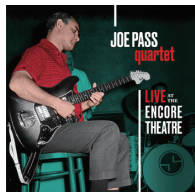
1936年7月28日、米国ミネソタ州ミネアポリス生まれ。本名はJames David Hughart。父親がミネアポリスとサンディエゴ・シンフォニーのコントラバス奏者だった影響で、幼少期から楽器を始める。17歳の頃から音楽活動を開始。ミネソタ大学の作曲・理論科に通った後、軍隊の第7部隊シンフォニー・オーケストラでベーシストを務める。レイ・ブラウンと親交を深め、除隊後レイ・ブラウンがエラ・フィッツジェラルドに推薦したのを機に、エラのツアーメンバーに抜擢される。1964年にロサンゼルスに拠点を移し活動。セッション・ベーシストとして活動するにあたり、エレクトリック・ベースをキャロル・ケイに師事。1960年代中頃から1980代にかけてはジョー・パスとの共演やレコーディング、トム・ウェイツの作品に参加する他、他のアーティストのツアーやメジャー・レーベルの作品にも参加。トム・ウェイツ以外にもザ・モンキーズ、ハーブ・アルパート、ジョニ・ミッチェル、ジョーン・バエズ、リンダ・ロシュタット、ダリル・ホール&ジョン・オーツ等、ロックやポピュラー・ミュージックの名立たるアーティストの作品に名を連ねている。その後もモーナ・シモン、ナタリー・コール、セリーヌ・ディオン等の作品に参加する他、映画やテレビ音楽にも携わる。82歳となった現在もロサンゼルスで暮らしている。

ジャンルを超えて活躍した名盤請負人的いぶし銀のベースマン

ジム・ヒューアートの存在を知ったのは、ジョー・パスやエラ・フィッツジェラルドのアルバムのクレジットだったが、よりインパクトを受けたのはトム・ウェイツとの共演だった。参加したトム・ウェイツのアルバムは、『土曜日の夜』『娼婦たちの晩餐〜ライブ』『スモール・チェンズ』『メインストリート』『異国の出来事』『ブルー・ヴァレンタイン』『ハートアタック・アンド・ヴァイン』『ジ・アサイラム・イヤーズ』。その他、グラミー7部門を受賞したナタリー・コールの『アンフォゲッタブル』、アカデミー歌曲賞とグラミー賞も受賞した映画『美女と野獣』の主題歌収録のセリーヌ・ディオン『セリーヌ・ディオン』にもクレジットされている。正に名盤請負人とも呼べるが、キャロル・ケイに師事したことも大きかったのだろう。キャロル・ケイは1万曲以上のレコーディングに参加した名セッション・ミュージシャン&女性ベーシストだ。

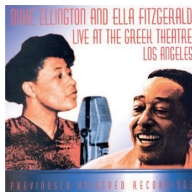
JH's Great Albums

リーダー・アルバムは発表していないが、ジャズだけでなくロックやポピュラー・ミュージックの大御所アーティスト達の名盤に参加しているジムの好演も体感して欲しい。



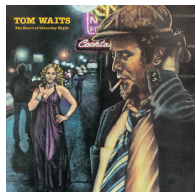
**ライブ・アット・ジョー・アンコール・シアター
ジョー・パス・カルテット**
(キングインターナショナル: PHONO-870282)

1964年米国ロサンゼルスでのアンコール・シアターで行われたジョー・パス率いるカルテットのライブ・アルバム。ベースはジム。全12曲収録。



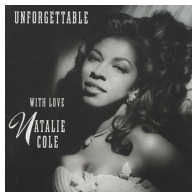
**ライブ・アット・ザ・グリーク・シアター・ロサンゼルス
デューク・エリントン&エラ・フィッツジェラルド**
(Status Records : DSTS-1013) [Import CD]

1966年9月23日米国ロサンゼルスでのグリーク・シアターで行われたデュークとエラの共演ライブ・アルバム。ジムがベースで参加。全17曲収録。



**土曜日の夜
トム・ウェイツ**
(ワーナーミュージック・ジャパン: WPCR-18006)

トム・ウェイツが1974年に発表した2ndアルバム。ジムが全曲でベースを担当。ジャズ・シーンからマイク・メルヴォイン、トム・スコット等も参加。



**アンフォゲッタブル
ナタリー・コール**
(現在絶盤)

ジムがベースで参加したナタリー・コールの名盤。父ナットとの時空を越えたデュエットが話題となり、グラミー賞7部門を受賞。1991年作品。